

第二章 一年間の新婚旅行 ————— 11

- 1 イギリスが遠かった頃 12
- 2 英語で見たミステリー映画 16
- 3 真夜中の図書館 20
- 4 日本人のいない村 24
- 5 タイムスリップ 28
- 6 クリスマスのヨーロッパ旅行 32
- 7 さびしがり屋の無人島 36
- 8 冬のイギリスと太陽のスペイン 40
- 9 幸せをみつめて 44

第三章 夢のような日々 ————— 47

- 1 運命の出会い 48
- 2 人生を変えた一言 52
- 3 二人だけの呼び名 57

- 4 奇跡の生還 62
- 5 修士論文の研究 65
- 6 待ちに待った長女が家に来た日 68
- 7 奨励研究員のころ 72
- 8 子連れ赴任 76
- 9 世界に問う研究成果 79
- 10 二女に買ったクーラー 86
- 11 湯川先生の字をもらった三女 89

第三章 フルハウス ————— 93

- 1 あこがれのニューヨークへ 94
- 2 ニュージャーシーの四季 98
- 3 できないわけはないだろう 103
- 4 休暇ごとの家族旅行 107
- 5 運転席と助手席 110
- 6 プライベート・ナース 114

7 私と娘たちの帰国 120

第四章 実りの季節 123

- 1 四十代の金字塔 124
- 2 京都サマーインスティチュート始末記(要約) 127
- 3 二度目のフルハウス 135
- 4 仕切り屋の荒仕事 138
- 5 夫からの花束のプレゼント 140
- 6 病室は仕事場 144
- 7 ガーゼのゆかた 147
- 8 猿橋賞受賞 151
- 9 一期一会 153
- 10 ニューヨークでの語らい 157

第五章 悠々自適 163

- 1 夫のセカンドライフ 164
- 2 フランス語の思い出 170
- 3 温泉のある別荘 175
- 4 価値観の転換 180
- 5 悠々自適の生活 184

第六章 すばらしい人生をありがとう 189

- 1 女房のほうが僕に惚れとるんや 190
  - 2 夏の山歩き 194
  - 3 いちばん、ほっとしますね 196
  - 4 大台に乗る日 207
  - 5 お別れ会 211
- 惜別の辞——吉田允昭 213
- 惜別の辞——石川光俊 216
- 謝辞 223

第七章 思い出の物語 ————— 233

- 1 君亡き夏 234
- 2 心もスーパーマンになった人 240
- 3 手探りの日々 245
- 4 夫の「遺産」 248
- 5 母と父、そして祖母 252

第八章 また会う日まで ————— 255

- 1 新しい世紀の仕事 256
- 2 娘たちの夢 259
- 3 私の好きな歌 263
- 4 思い出の街並み 266
- 5 めぐり来る春 272

新たな章 「二人」で紡ぎ続ける物語 ————— 279

- 定本刊行に際して——干支ひとまわりの年 280
- 1 レインコートの後ろ姿——空似か幻か 281
  - 2 地上の樂園——本書の初版が刊行されるまで 284
  - 3 追憶の旅——英国、あの原点の風景 287
  - 4 夫の人生の店じまい——品川、麻布、熱海、京都 291
  - 5 歩み続ける——此岸の縁で 295

定本あとがき 300